

農村集落部門：佳例川地区自治公民館（霧島市）

1 地区概要

霧島市の中心部から南東へ12kmほどに位置し、曾於市大隅町と隣接する佳例川地区は、早い時期から稲作の栽培が始まり、島津庄の開発地として注目されていた由緒ある土地である。



地区内には県内で2番目に長い川である菱田川の源流域を有し、きれいな水を利用した稲作のほか、シラス台地の畑地では、畜産（和牛子牛生産）が盛んに行われている。

平成21年度から水土里サークル活動を開始し、鹿児島大学学生による農作業ボランティアグループ「農援隊」の協力も得ながら農地・水路の保全や補修等に取り組んでいるほか、地区内外の様々な主体と連携し、地元産の希少価値の高いさつまいも「蔓無源氏」を使用したオリジナルの焼酎づくりや各種イベントを実施するなど、幅広いむらづくり活動を展開している。

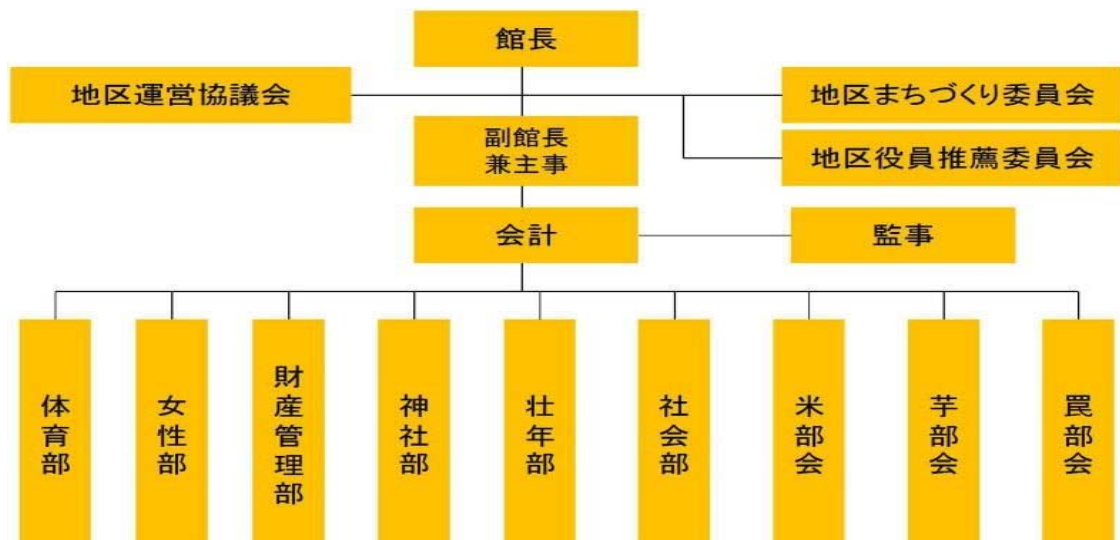
2 むらづくりの内容及び成果

(1) 農村集落の再生

高齢化が進み、祭りや運動会などの地域イベントがどんどん縮小されていく中、佳例川の未来や夢を話す場として平成7年に「佳例川を語る会」が地区の有志によって発足。この会を中心とした地域行事「お田植え祭り」の復活等をきっかけとして、地域一体となったむらづくり活動の気運が高まり、「佳例川地区自治公民館」としての様々な活動が展開されていった。

現在の組織は、館長のもと、9部会のほか、地区運営協議会、地区まちづくり委員会、地区役員推薦委員会、副館長兼主事、会計、監事などで構成され、話し合い活動を基本としながら、イベント実施や特産品開発等に取り組んでいる。

【地区の組織体制図】



(2) 多様な主体との連携

ア 大学との連携

鹿児島大学学生による農作業ボランティアグループ「農援隊」と協力して農作業を行っているほか、同大学学生と地域活性化策を検討するための聞き取り調査を実施。調査後も学生が地区の行事や農地の保全活動に参加するなど、交流が継続している。



農援隊と協力した農作業

イ 企業との連携

地元企業であるトヨタ車体研究所と連携し、社員による植樹や社員食堂での地域ブランド米「佳例川源流米」の利用イベント等を実施している。

また、地元産の希少価値の高いさつまいも「蔓無源氏」を原料とした焼酎の購入による地域支援も始まっている。



社員食堂での佳例川源流米イベント

(3) 新たなむらづくりの形成、むらづくりの維持・発展

ア 都市農村交流イベントの実施

鹿児島大学の学生やトヨタ車体研究所の若手職員のアイデアをもとに、新米の収穫時期に合わせてウォーキング大会を開催。毎年、地区内外から多くの参加がある。



ウォーキング大会の多くの参加者

イ 伝統行事の継承

平成9年に65年ぶりに「お田植え祭り」を復活。その後は近隣地区やスポーツ少年団等にも参加を呼びかけ、毎年欠かさず祭りを行っている。

また、280年の伝統を誇る「はやま祭り」では、お祭りの目玉として鹿児島大学の「ジャンベ部」に出演を依頼するなど、伝統行事の継承や活性化に取り組んでいる。

3 今後のむらづくりの方向性

整備した休耕田での「田んぼオーナー制度」の実施や、空き屋を改修した宿泊施設の活用により交流人口の拡大を図ることを中心に、

- ・ 蔓無源氏の植栽による未耕作農地の減少促進
- ・ 箱罾を活用した有害鳥獣の駆除
- ・ 伝統行事の継続
- ・ 佳例川源流米や蔓無源氏の消費拡大 にも取り組む。



地区内の水田